

図書館だより

vol.396

／New Books／

新しく入った本



「風を彩る怪物」

逸木 裕／著 祥伝社

フルート奏者で音大をめざす陽菜とパイプオルガン製作者の朋子。挫折しそうになった二人が周囲の人々に助けられながら前に進んでいく音楽小説。



「空をこえて七星のかなた」

加納 朋子／著 集英社

宇宙飛行士をめざす母を持つ娘・七星の話からはじまる短編集。7つの物語が北斗七星のようにつながっていく。

お知らせ

◎2階閲覧室の利用について

閲覧室をご利用の際は、1階カウンターで申し込みを済ませ、「座席表」を受け取り指定の席をご利用ください。また、飲み物などは机上に置かず、バッグ等に入れて保管し、飲食の際は、休憩コーナーをご利用ください。

◎図書館利用上のお願い

- 高温になる所に本やCD等を置いていませんか？
・本が反ったり、ディスクが傷みやすくなります。日があたるところや車の中に放置しないようご配慮願います。
- 足音の響く履物をご使用ではありませんか？
・下駄やお子様のピコピコサンダルでご来館の際は、お声かけさせていただくことがあります。
- 走り回ったり大声を出したりしていませんか？

静かな読書環境の中で、気持ちよく利用できるよう、皆様のご協力をお願いします。

今月の特集展示



児童向け

美術館へ行こう！
～アーノルド・ローベル展にちなんで



大人向け

美しい建築と景観
～ガウディ生誕170周年

8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

■ほえみ号巡回予定日(火曜日・土曜日)

※大雨などにより、巡回ができない場合があります。

●休館日

長与町図書館

☎883-1799 FAX883-7222

開館時間:10時~18時

ホームページ <https://www.nagayolib.jp/>



パソコンや携帯、スマートフォンから資料の検索や予約ができます。電話・FAXでの予約もできます。

新着図書

『奇跡集』 小野寺 史宜／著 集英社

『あきらめません！』 垣谷 美雨／著 講談社

『広重ぶるう』 梶 よう子／著 新潮社

『任侠ショコラティエ』 新堂 冬樹／著 双葉社

『棘の家』 中山 七里／著 KADOKAWA

『雨滴は続く』 西村 賢太／著 文藝春秋

『宙ごはん』 町田 そのこ／著 小学館

『子宝船』 宮部 みゆき／著 PHP研究所

『一心同体だった』 山内 マリコ／著 光文社

『忍者に結婚は難しい』 横関 大／著 講談社

『今日は、これをしました』 群 ようこ／著 集英社

『捨てることから始まる』 濑戸内 寂聴／著 祥伝社

『リリアンと燃える双子の終わらない夏』 ケヴィン・ウイルソン／著 集英社

『呼び出し』 ヘルタ・ミュラー／著 三修社

【新図書館進捗状況】

6月27日に、第7回新図書館整備計画検討委員会を開催し、「長与町新図書館基本計画(案)」の策定作業を行いました。7月以降は、他自治体図書館の視察および長与町新図書館基本計画の策定、市民ワークショップになります。



健康テラス

手足のしびれ



手足のしびれの原因は大きく分けて脊椎が悪い場合と肘や手などの末梢神経が悪い場合があります。脊椎が原因の代表的な病気には椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症などがあります。どちらも背骨の中にある神経が圧迫されて発症します。頸椎で神経が圧迫されれば肩から手先にかけて、腰椎で神経が圧迫されれば臀部から足にかけて痛みやしびれが出ます。腰椎椎間板ヘルニアは前かがみで、脊柱管狭窄症は後ろ反らしで症状が強くなるのが特徴です。腰痛や頸部痛を伴うことが多いですが、そうとは限らず手足だけに症状が出る場合もあります。肘から先の小指を中心にしび

道ノ尾みやた整形外科
宮田 倫明 先生



れるが出る場合は「肘部管症候群」の可能性があります。これは肘の内側で神経が圧迫されて発症します。手のひらから先の親指から薬指までがしびれる場合は「手根管症候群」かもしれません。この病気は朝にしびれが強く、手をふると楽になるのが特徴です。手足のしびれには脳腫瘍や糖尿病など整形外科領域以外の病気が原因の事もあります。しびれを我慢して長い間放置すると筋肉が痩せるなど麻痺が進行してしまい、治療しても治らなくなる場合があります。手遅れになる前に早めに病院を受診することをおすすめします。

かい ご GO の 部屋 ～支えあい part2～

広報にも結構な頻度で登場している「支えあい『ながよ』推進協議体」ですが、団体としては、平成31年2月に、事務局を介護保険課に置き、12名の委員(生活支援コーディネーター、行政改革推進委員長、コミュニティ運営協議会代表、サロン代表、食生活改善推進委員長、学識経験者、住民代表、役場関係課職員)で発足しました。その目的については、毎回の広報掲載時のとおり「協議体は地域での支えあいを考え実現させること」を掲げ、(コロナ禍においては書面会議も含め)年4～5回の全体会議を開催し、町の支えあい活動の「維持」「充実」「拡大」に向けた熱い協議を重ねています。

そして、現在の「支えあい『ながよ』推進協議体」(以下、支えあい協議体)は、町全体の支えあいを協議するチーム(第1層協議体)ですが、これからはもっと小さな単位で細やかな支えあいを協議し具体的な活動につなげるために、5つのコミュニティ単位での支えあいチーム(第2層協議体)を立ち上げていこうと奮闘しています。まだ第2層協議体の立ち上げには至っていませんが、町内ではすでに自治会やコミュニティ、民生児童委員などは、すでに支えあい協議体同様の活動を行っており、その他にも小さな支えあいとなる活動が多数存在していることもわかっています。

前号でもお伝えしましたが、支えあいの推進は、長与町が独自に行っていることではなく、国全体で、しかも、



かなり力を入れている取組みなのです。

コミュニティ単位の支えあいチーム(2層協議体)に関しては、これまで活動を続けてきた団体などとの話し合いや協力がとても大切であると思っています。

少し難しいお話になってしましましたので、ほっこりするお話を2つ。

1つ目は、以前広報の「支えあい」コーナーでご紹介した、山羊のカブリコ。(元気にしているかな)公園の草を食べてもらうために貸し出された山羊を通じて、ひきこもりがちの方が外出するようになったり、山羊を見に来た人同士の交流につながったり…まさに支えあい活動につながるものがありますね。

2つ目は、最近テレビで見た「ボツンと一軒家」の番組。山の上の一軒家に住む70代の方が、昔お世話になったからと近所の90代の方の買い物やデイサービスの送迎介助をしているお話。90代の方は、このお手伝いがあるから自宅での生活が可能になっているんです…これもまさに、支えあい！

次回は、知っておきたい「認知症について」です。お楽しみに！

